

「笑顔、やる気、希望」に満ちた高山社学

— 郷土を誇りに思い、郷土を愛する児童生徒の育成 —

藤岡市教育委員会

1. はじめに

藤岡市は、群馬県の南西部に位置し、平成 26 年 6 月には、近代養蚕技術の向上に貢献した高山社の功績を後世に残すため、市民と行政が一体となって活動し、「高山社跡」が「富岡製糸場と絹産業遺産群」の構成資産として世界文化遺産に登録された。平成 25 年から、全ての小・中学校で、養蚕業の研究・教育機関であった高山社跡を教材として活用した「高山社学」を行っている。

高山社学では、郷土（藤岡市）を誇りに思い、郷土への愛着を高めるとともに、思考力・判断力・表現力も含めた幅広い学力とその活用力を身に付けさせることをねらいとしている。



長屋門にて

2. 教育目標

本市は笑顔、やる気、希望に満ちた子どもの育成を合い言葉に、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の一層の充実により、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指している。

平成 29 年度からコミュニティ・スクールの実践研究を始め、市内 5 つの中学校区それぞれにひとつの学校運営協議会を置き、コミュニティ・スクールとしてスタートした。全市をあげて、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を推進している。

3. 教育委員会・学校での取組

(1) 小中一貫「高山社学」の充実

高山社学は、創始者である高山長五郎の功績や高山社の歴史的価値について学び、郷土（藤岡市）を誇りに思い、郷土を愛する児童生徒を育てることを目指している。学習の中で、児童生徒は、高山社の新たな養蚕技法「清温育」という「技術革新」と、全国への普及啓発に努めた「広がり」に着目し、高山社が近代日本を大きく支えたことを学び、郷土に対する思いを深めている。

具体的には、「高山社学ティーチャーズガイド 1・2」（9年間を見通した指導の手引）と各中学校区で作成した「高山社学系統表（図 1）」（教科を横断した計画）をもとに、教育委員会と学校がつながりをもって、小中一貫した実践を進めている。

また、高山社跡を実際に見て触れることで、歴史的価値に気付かせるというねらいから、高山社頭

小野中学校区高山社学系統表

高山社学 教科手帳	小 学 校					中 学 校		
	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	小学校5・6年	小学校6年	中学校1年	中学校2年	中学校3年
高山社学 教科手帳	高山社学教科手帳の活用と、教科書教材の活用、単元学習の展開、学習活動の展開					高山社学教科手帳の活用と、教科書教材の活用、単元学習の展開、学習活動の展開		
高山社学 教科手帳	高山社学教科手帳の活用と、教科書教材の活用、単元学習の展開、学習活動の展開					高山社学教科手帳の活用と、教科書教材の活用、単元学習の展開、学習活動の展開		
国語								
算数								
理科								
社会								
音楽								
体育								
美術								
外国語								
道徳								
総合								
特別活動								
部活動								
その他								

高山社学系統表（図 1）

彰会（地元有志団体）の見学ボランティアに協力してもらい、小中学校で発達段階に応じた内容で1回ずつ見学を設定している。現在、高山社跡は母屋兼蚕室の修復・耐震補強の工事が行われており、通常では見られない建物の構造部分や使用されている木材等の様子を見学している。さらに、富岡製紙場や群馬県立世界遺産センター「セカイト」の見学等、様々な体験を行った。

見学する際の資料として、「高山社跡見学資料」(図2)を活用し、関心を高めるとともに、深い学びになるよう資料も毎年改訂している。

(2) 「高山社学」を柱とした実践例

高山社跡が校区にある美九里西小学校では、「高山社学」を柱として、3～6年生の総合的な学習の時間をESDの活動に位置付けている(図3)。具体的には3年生では、身近な地域に関する学習「美九里地区について調べよう」、4年生では「郷土の誇り高山社」、5年生では、福祉に関する学習「地域の人々とつながり支え合う社会」、6年生では「地域の歴史や文化を知らう」をテーマに各学年で探究的な学習を行っている。特に4年生は、高山社跡見学(図4)や富岡製糸場見学、養蚕体験や座繰り体験(図5)などに取り組んでいる。これらの体験学習や調査活動を踏まえて、児童一人一人が主体的に課題を追究し、新聞形式にまとめ3年生に発表している。また、5年生は養蚕方法やそれに伴う用具類の扱い方を引き継ぎ、6年生に繭を提供して卒業式のコサージュ作りを行う(図6)など、縦のつながりも重視している。

美九里西小では、これら一連の活動を通して、養蚕を支えてきた人々の工夫や努力に対する敬意、蚕を大事に育てる気持ちを深めている。また、高山社跡を地域教材として生かすことが、学習意欲の向上につながり、地域の一員としての自覚を促すことにもつながっている。



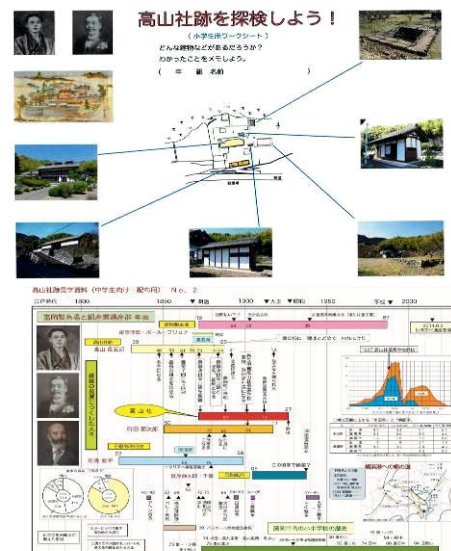
高山社跡見学(図4)



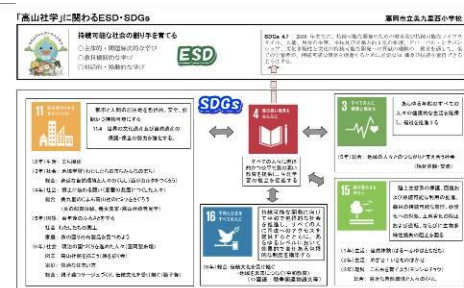
座繰り体験(図5)



親子まゆコサージュづくり(図6)



高山社跡見学資料(図2)
(上 小学生資料 下 中学生資料)



「高山社学」に関わるESD(図3)

4. おわりに

子どもたちには、郷土の宝である高山社学の学習を通して、地域のよさを実感したり、地域とのつながりを認識させたりしたい。そして、地域の一員として地域を担い支えていく意欲や態度を子どもの頃から育ませ、郷土を愛する児童生徒に育ててほしいと願っている。

そのためにも、世界遺産学習連絡協議会に加盟している各地域の先進的な取組を学び、本市の実践に活かしていきたい。また、各地域と連携、協働し、日本の未来の担い手となる子どもたちを共に育てていきたいと考える。